2024 年 3 月吉日

第 113 回看護師国家試験　総評

なすもし監修チーム

第 113 回看護師国家試験は、厚生労働省所管医療関係職種国家試験における新型コロナウイルス感染症対策等の注意喚起や受験者への配慮はなくなり、従来の国試受験体制に戻りました。

■問題構成

大きな変化はありませんでした。以前から厚生労働省から明確な告知はありませんが、問題構成は、午前、午後ともに、必修問題 25 問、一般問題 65 問、状況設定問題 30 問の合計 240 問でした。

出題基準 12 科目の出題数も大きく増減はありませんでした。一つの状況設定問題に対し、単問、2 連問の問題は昨年の第 112 回と同様出題されておらず、全て 3 連問で構成されていました。

出題形式	第 112 回			第 113 回		
	必修	一般	状況設定	必修	一般	状況設定
五肢択一	2	23	1	2（±0）	17（-6）	2（+1）
五肢択二	0	10	5	0（±0）	16（+6）	1（-4）

（　）内は昨年と比べた問題増減数

■問題内容

１．必修問題

過去数年と比較し、難しくなったように感じました。第 112 回看護師国家試験までは、過去の必修問題がほとんどそのまま出題されており、安定した得点率を確保できていたと思われます。しかし、今回の看護師国家試験では、過去の必修問題そのままの出題が減少し、「過去問題で出題された単語だけに着目して回答すると間違う問題」（午前 5）、「過去問題を誤答肢が正答肢となるように改変した問題」（午前 7）、「過去問題では表現に馴染みがない問題」（午前 23）、「過去問題と同じ問題テーマだが問われる内容・視点が異なる問題」（午後 5）、「一般問題で出題された内容を必修問題として改変した問題」（午後 2）などが散見されたため、単純に過去問題を解く、正答をそのまま覚えるという対策で国家試験に臨んだ受験生には、難易度は高く感じたのではないでしょうか。

２．一般問題

第 112 回と比較し、解きやすい問題と解きにくい問題の濃淡が開いている印象を受けました。「過去問題の選択肢の内容を深めた問題」（午後 77）、「アセスメントをした上で判断をする問題」（午後 42）、「症状の原因となる病態生理の理解を問う問題」（午後 88）などの良問や、老年看護学では定番の「カタカナ用語の意味を問う問題」（午前 49、午前 56、午後 50、午後 52、午後 72）が小児看護学、看護の統合と実践で見られる一方、例年と変わらず、人体の構造と機能（午後 77）、疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度は、解きにくい問題が見受けます。法規や統計に関連した問題は、出題基準の科目を横断する形で多く出題されていました。

３．状況設定問題

過去問題がそのまま出題されており（午前 109～111、午後 94～96、午後 100～102、午後 116）、第 112 回と比較すると解きやすくなりました。五肢択二問題が減少していることもその理由と考えられます。状況設定問題は、その状況をイメージしアセスメントしていく力を確認する問題であり、看護師国家試験では大切な分野と考えています。しかし、近年、新規の作問が減少し、受験生のアセスメント力を試す問題が少なくなり、残念に感じています。臨床でも対応できる力を問う問題への変化に期待したいと思います。また、特徴的な問題として、ネーゲレの概算法による出産予定日を問う計算問題（午前 106）や、変形性股関節症の患者さんへの具体的な性交渉の体位説明を問う問題（午前 101）、嚥下障害のある児への保育所での合理的配慮に関する問題（午前 105）がみられました。

■今回の国試を踏まえた今後の対策

周知のとおり、第 99 回、第 107 回も必修問題については不適切問題または、採点除外問題として扱い、合格基準の調整が行われています。今回も必修問題の難化によって合格基準の調整が行われるかはわかりません。しかし、出題基準から今年の問題を検証すると、全ての必修問題は出題基準の小項目にあるキーワードがテーマになり出題されています。

今後の国試対策では、必修問題に限らず、一般問題、状況設定問題においても「易化」に合わせた学習ではなく、「難化」したとしても一定基準の点数が取れるような学習が必要だと考えます。

必修問題であっても、過去問題をベースに手を入れ込んだ作りとなっている現状を踏まえると、問題数をただひたすら解いて終わるのではなく、問題文、選択肢をしっかりと理解、確認しながら、関連する知識を積み重ねていくことが大切だと考えます。

■必修問題の具体的な問題

【過去問題で出題された単語だけに着目して回答すると間違う問題】

午前問題 5

臨床研究の倫理指針で被験者の権利を便先することを提唱しているのはどれか。 1.オタワ憲章 2.リスボン宣言 3.ジュネーブ宣言 4.ヘルシンキ宣言（予想○）

国試過去問題での類問	
第 102 回午前問題 4	第 107 回午前問題 32
ヘルシンキ宣言で提唱されたのはどれか。 1.リビングウィル 2.ヘルスプロモーション 3.ノーマライゼーション 4.インフォームド・コンセント○	良質の医療を受ける権利を宣言しているのはどれか。 1.リスボン宣言○ 2.ヘルシンキ宣言 3.ジュネーブ宣言 4.ニュルンベルク綱領

過去問題をなんとなく暗記してしまうと、「ヘルシンキ宣言」は「インフォームド・コンセント」、「患者の権利」は「リスボン宣言」と記憶してしまい、多くの受験生が正答を 2 としてしまったと推測できます。

【過去に出題された問題を誤答肢が正答肢となるように改変された問題】

午前問題 7

学童期中学年から高学年にみられる、親から離れて仲の良い仲間同士で集団行動をとる特徴はどれか。 1.心理的離乳 2.自我の芽生え 3.ギャングエイジ（予想○） 4.自我同一性〈アイデンティティ〉の確立

『ギャングエイジ』は、第 93 回、第 97 回、第 102 回、第 112 回（一般問題）の過去の国試でいずれも誤りの選択肢として出題されていますが、正答として出題されたことはありません。

【過去問題では表現に馴染みがない問題】

午前問題 23

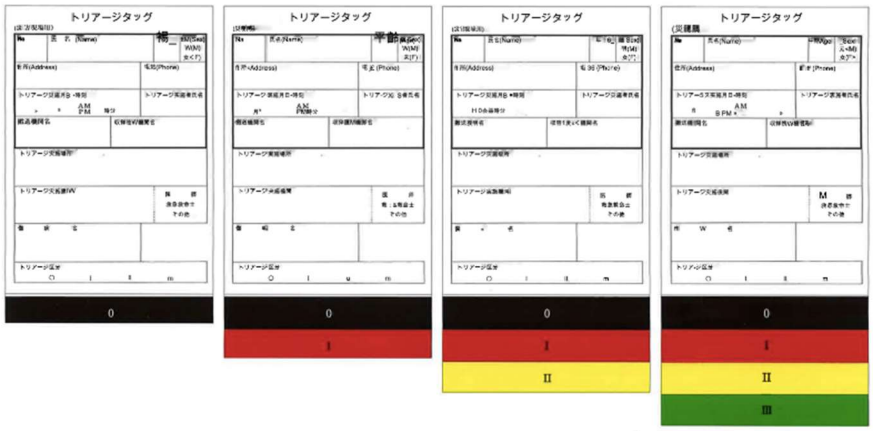
トリアージタッグ以下に示す。待機的治療群となるトリアージタッグはどれか。

1.①

2.②

3.③（予想○）

4.④



① ② ③ ④

過去問題では、第 102 回、第 108 回で『最優先治療群は「赤」である』ことを問う内容でした。今回の問題では「待機」という言葉に惑わされた受験生も多かったのではないでしょうか。「待機的治療群」が「トリアージタッグ黄色」に該当すると知らず、「待機とあるので緑だ」と思った受験生もいました。

【過去問と同じ問題テーマだが、問われる内容・視点が異なる問題】

午後問題 5

看護師の業務従事者届の届出先はどれか。

1.保健所長

2.厚生労働大臣

3.都道府県知事（予想○）

4.都道府県ナースセンターの長

過去の出題（第 100 回、第 106 回）はいずれも業務従事者届の提出間隔を問う問題でした。

【一般問題で出題された過去問題を必修問題として改変した問題】

午後問題 2

日本人の食事摂取基準(2020 年版)に示されている、18～49 歳女性(月経あり)の鉄摂取推奨量はどれか。

1.5.5mg/日

2.10.5mg/日（予想○）

3.15.5mg/日

4.20.5mg/日

国試過去問題での類問
第 101 回　午前問題 40
A さん（35 歳、女性）は、身体活動レベルⅡ、月経周期は規則的である。1 週間に摂取したエネルギー及び栄養素の平均値を表に示す。日本人の食事摂取基準（2020 年版）に達するために追加するとよい食品はどれか。

1.卵 1 個（55g）

2.レバー2 切れ（50g）

3.イチゴ 10 粒（120g）

4.普通牛乳 200mL（206g）○

（1 日当たり）

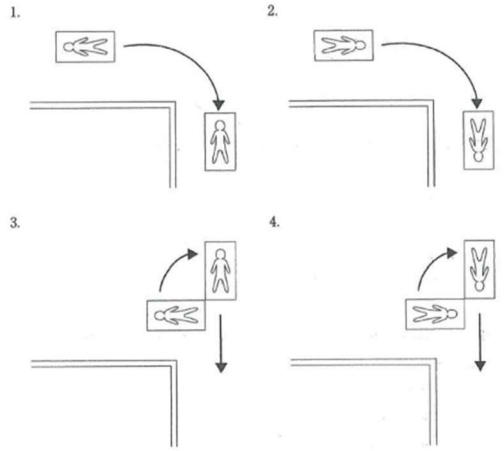
エネルギー	蛋白質	脂　肪	ビタミンC	カルシウム	鉄	食物繊維
1,900 kcal	50 g	40 g	150 mg	450 mg	13.0 mg	20 g

鉄の推奨量の設問は、第 101 回の午前 40 基礎看護学の一般問題以降出題されていません。

【図の読み取りで正誤が分かれた問題】

午後問題 2 1

ストレッチャーでの角の曲がり方を図に示す。適切なのはどれか。



（1：予想○）

予想解答は 1 になります。「ストレッチャーで平地を移送する場合は、足を進行させる」「カーブを曲がる場合は、頭部を軸にしてゆっくり大きなカーブを描くように曲がる」と教科書にあるものの、ストレッチャーの動線自体を視覚的に理解できる図など掲載されていないためか、図の読み取りが分かれ、頭部を回転させた 3 を選んだ受験生も多かったのではないでしょうか。

【過去問題の選択肢の内容を深めた問題】

午前問題 77　（人体の構造と機能）

小脳の機能はどれか。 1.睡眠と覚醒 2.姿勢反射の中枢 3.振動感覚の中継 4.随意運動の制御（予想○） 5.下行性の疼痛抑制

国試過去問題での類問
第 104 回　午後問題 81
小脳の機能はどれか。**2 つ選べ。** 1.関節角度の知覚 2.振動感覚の中継 3.姿勢反射の調節 ○ 4.随意運動の制御 ○ 5.下行性の疼痛抑制

過去問題の選択肢を丁寧に解剖学に戻り学習して理解できないと、正答を導き出せません。

【アセスメントをした上で判断をする問題】

午後問題 42（基礎看護学）

術後の創傷治癒が遅延する因子となる検査値はどれか。 1.アルブミン 2.2g/dL（予想○） 2.推算糸球体濾過値＜eGFR>62mL/分/1.73m^2 3.動脈血酸素分圧<PaO_2>88Torr(room air) 4.ヘモグロビン A1c(HbA1c) 5.5%

新規の出題でした。選択肢一つずつを判断した上で、解答する問題に構成されており良問です。

【症状の原因となる病態生理の理解を問う問題】

午前問題 88（成人看護学）

肝硬変による肝性脳症で生じるのはどれか。2 つ選べ。 1.浮腫 2.異常行動（予想○） 3.くも状血管腫 4.羽ばたき振戦（予想○） 5.メドウーサの頭

症状が出現する原因を押さえることで正答できる問題。病態生理を理解していることが必要な良問です。

【カタカナ用語の意味を問う問題】

午前問題 49（老年看護学）

A さん(86 歳、女性)は、生まれ育った地域で、近所に住む友人と交流しながら 1 人で暮らしていた。買い物へ行く途中に転倒し、腰椎圧迫骨折で入院治療を受けた。退院後は他県に住む長女夫婦と同居している。暮らし始めて間もなく、A さんは「私はここで暮らして、新しい友人ができるかしら」と長女に訴えるようになり、徐々に口数が少なくなった。
このときの A さんの状況はどれか。
1.閉じこもり
2.廃用用症候群
3.セルフネグレクト
4.リロケーションダメージ（予想○）

午前問題 56（小児看護学）

子どもに医療処置を行う際、看護師が行うディストラクションはどれか。
1.処置後に子どものがんばりを認める。
2.人形を用いて子どもに処置を説明する。
3.子どもの対処行動のパターンを把握する。
4.子どもの注意を処置ではなく他のものに向ける。（予想○）

午後問題 72（看護の統合と実践）

サイコロジカルファーストエイド〈Psychological First Aid：PFA〉について正しいのはどれか。
1.活動の原則は、見る、聞く、つなぐである。（予想○）
2.災害発生から 1 週間経過してから活動する。
3.被災都道府県からの派遣要請に基づき活動する。
4.苦痛の原因となった出来事を詳細に話すことを促す。

【過去問題の出題実績が乏しい問題】

午前問題 37（基礎看護学）

病室で読書をする際に適した照度はどれか。
1.100 ルクス
2.300 ルクス（予想○）
3.500 ルクス
4.1,000 ルクス

病室の照度は過去に出題されたことがありますが、読書灯までおさえている受験生は多くはないとは思われます。

午前問題 76（人体の構造と機能）

乳房について正しいのはどれか。
1.月経前に乳房が張りやすいのはエストロゲンの影響である。
2.乳腺周囲の平滑筋はオキシトシンによって弛緩する。
3.乳腺はアポクリン汗腺が変化したものである。（予想○）
4.乳房は褐色脂肪組織である。
5.乳管は乳汁を産生する。

第 102 回午前問題 87 では『アポクリン汗腺』の分布が問われましたが、発生過程が問われたのは初めてで、誤りの選択肢を削除していくことで正答に辿り着く問題でした。

午後問題 45（成人看護学）

ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉に汚染された注射針による針刺し事故の感染率で正しいのはどれか。
1.40%
2.10%
3.2%
4.0.3%（予想○）

感染率が低いことは知る必要はありますが、感染率の具体的な数値まで把握している受験生は少なかったのではないでしょうか。

午後問題 76（人体の構造と機能）

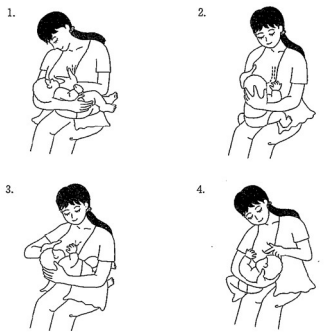
直腸の構造で正しいのはどれか。
1.陰窩には杯細胞が存在する。（予想○）
2.粘膜の表面には絨毛がある。
3.縦走筋は結腸ヒモを作る。
4.肛門管は血管が少ない。
5.肛門管は内腔が広い。

直腸の解剖で、陰窩という部分があることや組織学的での「杯細胞」で構成されていることを知っている受験生は少ないと思われ、誤りの選択肢を削除していくことで正答に辿り着く問題でした。

■状況設定問題の具体的な問題

【過去問題を改変している問題】

（母性看護学）

午前問題 109～111 状況設定文	第 109 回午前問題 109～111 状況設定文
A さん（32 歳、初産婦）は妊娠 39 週 4 日で男児を正常分娩した。出生体重 3,000g、身長 48.0cm。出生直後、児に付着していた羊水を拭き取り、インファントラジアントウォーマーの下で観察を行った。その後、温めておいた衣服を着せてコットに寝かせ、コットを空調の風が当たらない場所に配置した。	在胎 39 週 4 日で、正常分娩で出生した児。出生体重 3,000g、身長 48.0cm。出生直後、児に付着していた羊水をふき取り、インファントラジアントウォーマーの下で観察を行った。体温 37.5°C、呼吸数 56/分、心拍数 150/分、呼吸音は異常なし。看護師は観察を終え、温めておいたベビー服を着衣させ、同様に温めておいた寝具を用いて準備をしたコッドに児を寝かせた。コットは壁際や窓辺を避け、空調の排気口からの風が当たらない場所に配置した。
午前問題 109	**第 109 回午前問題 109**
看護師の行為で対流による児の熱喪失を予防したのはどれか。 1.羊水を拭き取った。 2.インファントラジアントウォーマーの下で観察を行った。 3.温めておいた衣服を着せた。 4.コットを空調の風が当たらない場所に配置した。（予想〇）	看護師が児の体温保持のために行ったことと、それにより予防される熱の喪失経路との組合せで正しいのはどれか。 1.羊水をふき取ったこと――蒸散〇 2.観察をインファントラジアントウォーマーの下で行ったこと――対流 3.温めたベビー服と寝具を用いたこと――輻射 4.風が当たらない場所にコットを配置したこと――伝導
午前問題 110	**第 94 回午後問題 78**
産褥 3 日。A さんは児の啼泣に合わせて横抱きで母乳を与えている。A さんの乳房の型は II 型、熱感が出てきている。乳管は左右とも 4 本開通している。「抱き方は色々あると聞きました。今の方法以外の授乳の仕方はありますか」と相談を受けた。授乳の仕方を図に示す。 A さんに適した授乳の仕方はどれか。 （3：予想〇）	産褥 1 日の授乳時、児はうまく吸着できず、吸啜が続かない。乳房の型はタイプ I 型、乳頭は扁平で長さは 6～7mm、乳頭乳輪部は柔らかい。 授乳時の姿勢で最も適切なのはどれか。  （2：〇）

午前問題 111	第 109 回午前問題 111
日齢 4。体重 2,760g。児のバイタルサインは正常である。経皮ビリルビン 10mg/dL。前日の排尿は 1 日 4 回、排便 1 日 1 回。母乳のみを哺乳している。1 回の授乳に 30 分以上かかり、授乳後も児は啼泣している。児は音に反応して抱きつくような動きをする。 新生児のアセスメントで適切なのはどれか。 1.異常な反射を認める。 2.母乳不足が疑われる。（予想○） 3.黄疸が生理的範囲を超えている。 4.体重減少が生理的範囲を超えている。	生後 3 日。看護師が朝の観察を行った時の児の状態は、体温 37.0°C、呼吸数 40/分、心拍数 130/分。体重 2,680g。顔面と胸部の皮膚に黄染が認められる。その他の部位は淡紅色である。手関節と足関節の皮膚に落屑がある。尿は 6 回/日、便は 2 回/日で移行便である。児の状態で生理的特徴から逸脱しているのはどれか。 1.体温 2.呼吸数 3.皮膚色 4.体重減少率○ 5.皮膚の落屑

（成人看護学）

午後問題 94～96　状況設定文	第 103 回午後問題 94～96　状況設定文
A さん（43 歳、男性、会社員）は、1 か月前に右頸部の腫瘤を自覚した。大学病院で非 Hodgkin〈ホジキン〉リンパ腫と診断され化学療法導入目的で入院した。 バイタルサイン:体温 37.1° C、呼吸数 16/分、脈拍 84/分、整。 身体所見:顔面に浮腫を認める。 検査所見:Hb12.8 g/dL、白血球 6,400/μL、総蛋白 7.6g/dL、アルブミン 4.1g/dL。 胸部造影 CT:縦隔リンパ節腫大による上大静脈の圧迫を認める。	A さん(43 歳、男性、会社員)は、1 か月前に右頸部の腫瘤に気付き、自宅近くの診療所を受診し、大学病院を紹介された。検査の結果、A さんは、非 Hodgkin〈ホジキン〉リンパ腫と診断され、縦隔リンパ節腫大による上大静脈の圧迫も確認され、化学療法導入のため入院した。A さんは「悪性リンパ腫と言われたときにはショックだったけど、化学療法は有効であると聞いて、頑張ろうと思っている」と話す。 入院時、A さんは体温 37.5°C、呼吸数 18/分、脈拍 84/分、血圧 124/64mmHg であった。血液検査データは、赤血球 302 万/μL、Hb10.3g/dL、白血球 6,400/μL、総蛋白 7.6g/dl であった。
午後問題 94	第 103 回午後問題 94
A さんの顔面の浮腫の原因で考えられるのはどれか。 1.発熱 2.貧血 3.低蛋白血症 4.上大静脈の圧迫（予想○）	入院当日、A さんは看護師に「最近、なんとなく手がむくんでいるような気がする」と言う。A さんの手のむくみの原因として可能性が高いのはどれか。 1. 発熱 2. 貧血 3. 低蛋白血症 4. 上大静脈の圧迫○

午後問題 95	第 103 回午後問題 95
A さんは R-CHOP 療法（リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾロン）を受けた。 A さんの R-CHOP 療法の初日に生じる可能性がある合併症はどれか。 1.脱毛 2.口内炎 3.低血糖 4.好中球減少症 5.腫瘍崩壊症候群（予想○）	入院後 4 日。A さんは化学療法として CHOP 療法（シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾロン）を行うことになった。開始前の A さんへの説明で適切なのはどれか。 1. 「高齢の人より副作用は少ないでしょう」 2. 「明日から加熱食となります」 3. 「3 日目ころから脱毛が始まります」 4. 「5 日目ころから口内炎ができやすくなります」○
午後問題 96	**第 103 回午後問題 96**
A さんは R-CHOP 療法終了後も嘔気・嘔吐が続き、 制吐薬の追加投与を受けた。治療後 3 日、「やっと楽になって食事が摂れるようになったけど、やっぱりつらかった。思い出すだけでも気持ち悪くなります」と話している。 A さんの次回の R-CHOP 療法において、嘔気・嘔吐への対応で適切なのはどれか。 1.1 日 1,000mL の水分摂取 2.治療前日の夕食の中止 3.治療前の制吐薬の投与（予想○） 4.抗癌薬の減量	治療は正午から開始され、午後 5 時ころから胸やけと悪心が出現した。その後、A さんは制吐薬を追加投与され、症状は軽減した。それ以降、A さんに悪心・嘔吐はないが、翌日も食欲がなく、食事は 1/4 程度の摂取であった。治療後 3 日には症状が改善し、食事は全量摂取できた。A さんは「楽になったけど、やっぱりつらかった。思い出すだけでもちょっと気持ち悪くなる」と話す。治療後 3 日までの状況を踏まえて、次回の治療時の対応で最も適切なのはどれか。 1. 治療前日の夕食を控えてもらう。 2. 治療薬の減量を医師に相談する。 3. 1 日 1,000mL の水分摂取を促す。 4. 病院食以外は食べないよう指導する。 5. 治療前の制吐薬の追加投与を検討する。○

第 103 回午後問題 94、96 を一部改変しているものの、そのままの出題。午後問題 95 は、第 103 回午後問題 95 の正答選択肢を変更して出題。

（小児看護学）

午後問題 100～102　状況設定文	第 103 回午後問題 103～105　状況設定文
A ちゃん（7 歳、女児）は、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、肉眼的血尿および両眼瞼の浮腫を主訴に来院した。1 か月前に扁桃炎に罹患した以外は既往歴に特記すべきことはない。扁桃炎は抗菌薬を内服し軽快した。検査の結果、溶連菌感染後急性糸球体腎炎と診断されて入院した。入院時、A ちゃんは体温 36.6°C、呼吸数 20/分、心拍数 84/分、血圧 130/80mmHg で、床上安静の指示が出された。	A 君(8 歳、男児)は、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、肉眼的血尿および両眼瞼の浮腫を主訴に病院を受診した。1 か月前に扁桃炎に罹患した以外は既往歴に特記すべきことはない。扁桃炎は抗菌薬を内服し軽快した。血液検査の結果、溶連菌感染後急性糸球体腎炎と診断されて入院した。入院時、A 君は体温 36.8°C、呼吸数 20/分、脈拍は 80/分、整で血圧 132/80mmHg であった。

午後問題 100	第 103 回午後問題 103
A ちゃんの入院時の看護計画で適切なのはどれか。 1.水分摂取を促す。 2.1 日 3 回の血圧測定を行う。（予想○） 3.食事の持ち込みを許可する。 4.腰部に消炎鎮痛薬を貼用する。	A 君の入院時の看護計画で適切なのはどれか。 1. 水分摂取を促す。 2. 背部の冷罨法を行う。 3. 1 日 3 回の血圧測定を行う。○ 4. 食事の持ち込みを許可する。
午後問題 101	第 103 回午後問題 104
入院 3 日。両眼瞼の浮腫と肉眼的血尿は続いていた。看護師が A ちゃんのベッドサイドを訪れると、A ちゃんは「頭が痛い。気持ち悪い」と訴えた。A ちゃんは体温 36.6° C、呼吸数 20/分、心拍数 92/分、血圧 148/88mmHg であった。この状況から A ちゃんに起こりうる症状はどれか。 1.眼のかゆみ 2.意識障害（予想○） 3.耳漏 4.鼻閉	入院 3 日目。両眼瞼の浮腫、肉眼的血尿は続いていた。看護師がバイタルサインを測定していると、A 君は「頭が痛い。気持ち悪い」と訴えた。A 君は体温 36.8°C、呼吸数 20/分、脈拍 88/分、血圧 142/86mmHg であった。この状況から A 君に起こりうる症状で注意するのはどれか。 1. 耳痛 2. 鼻閉 3. 視野欠損 4. 意識障害○
午後問題 102	第 103 回午後問題 105
入院して 1 週が経過した。症状は軽快傾向にあるが床上安静は続いている。仲が良かった同じ病室の児が退院して、A ちゃんはイライラしている。A ちゃんの母親は、毎日昼食後から夕食まで面会をしている。 A ちゃんのストレスに対する看護師の発言で適切なのはどれか。 1.「すぐに退院できるから頑張ろう」 2.「好きなだけテレビや動画を観ていいよ」 3.「ベッドに寝たままプレイルームに行こう」（予想○） 4.「夕食後もお母さんに付き添ってもらおう」	入院後 2 週間が経過した。症状は軽快したが床上安静は続いている。仲が良かった同じ病室の児が退院して、A 君はイライラして母親をたたくこともある。A 君の母親は、毎日昼食後から夕食後まで面会をしている。A 君のストレスに対する看護師の対応で適切なのはどれか。 1. 「家にすぐ帰れるから頑張ろう」 2. 「お母さんにずっといてもらおう」 3. 「好きなだけテレビを観ていいよ」 4. 「ベッドに寝たままプレイルームに行こう」○

第 103 回午後問題 103～105 を一部改変しているものの、そのままの出題。

（地域・在宅看護論）

午後問題 116	第 108 回午後問題 117
退院後 1 週。A さんの父親から「最近、大雨や落雷、地震による被災の報道が多くて、A は人工呼吸器を付けているし、弟もまだ小さいので不安です。災害に備え何をすればよいでしょうか」と訪問看護師に相談があった。 訪問看護師が A さんの父親に説明する内容で優先度が高いのはどれか。 1.非常用電源の選び方（予想〇） 2.福祉避難所への移動手段 3.足踏み式吸引器の使用方法 4.ハザードマップの確認方法	退院から 2 週後、妻から「昨日、私が透析を受けている病院で災害が発生した場合の診療について説明がありました。在宅での生活にも少し慣れてきたし、夫のことも気になるので、あらためて災害に備えておきたいのですが、何から始めればよいでしょうか」と訪問看護師に相談があった。 訪問看護師が妻に指導する内容で最も優先度が高いのはどれか。 1. 予備の電源の選び方〇 2. 福祉避難所への移動手段 3. 災害用持ち出し物品の準備 4. 足踏み式吸引器の使用方法

第 108 回午後問題 117 を一部改変しているものの、そのままの出題（過去問題では、高齢者 ALS の症例）。